

# 百庚申

高野を歩く

高野区(須賀地区)には、JR飯倉駅の東側を南北に通る県道49号線に沿って北から笹曾根、中高野、戸田の3集落があります。

400年ほど前に高野村が成立しましたが、江戸時代中期の1700年ごろから5人の旗本に分割支配されたことなどで、集落ごとのまとまりが強まったようです。「コウヤ」の語源は、中世末から近世初めの開墾地名とされ、1740年ごろから同村と米倉村との間の沼地が干拓され以後、水田の面積が増えました。江戸時代の高野村の様子を

伝える古文書は残念ながら発見されていませんが、寺社境内や墓地、路傍の石造物などからわずかながら知ることができます。

3集落には明治の初めまで寺院があり、今でも寺跡は弘法大師堂などや一部が墓地となっています。石造物をみると、女性の集団である「十九夜講」や1811年にまつられた子安大明神に「当村女人中」、1846年の地藏尊に「高野村 善女人中 善男女人」とあり、村をあげてまつったと見られます。

男の講集団「庚申講」が建

石に「笹曾根郷」と刻まれ、集落の強い繋がりを示しています。

60日ごとに巡ってくる「か

のえさる・庚申」の日に村や集落ごとの集まりが庚申講で、講や個人が庚申塔を造立しました。市内には多くの庚申塔が残されていますが、ただ1基非常に珍しい「百庚申」があります。

笹曾根の百庚申は、現在コミュニティセンターが建つ寛寿院跡の敷地内に道路に面して4基の庚申塔と並んであります。高さ1mほどの自然石の表面に、日月雲とともに「百村 百庚申」と文字が刻まれ、裏面には「萬延元庚申 年 願主 久兵衛」とあり庚申の年に当る1860年に同村の久兵衛が造立したことがわかります。

百庚申は、より多くの塔を建てることにより、より多くの功德を得たいという人々の気持ちの表れとされています。墓地や道路改修などで失われる石造物もある中、高野区では40年前に調査したものがそのまま保存されていました。(元 市職員・依知川雅一)



笹曾根の百庚申

てた1782年の庚申塔には「戸田村郷中」、また笹曾根の八坂神社の1857年に奉納された手洗

問秘書課広報聴班

☎ 73・0080